Astronomical Society of the Pacific の Centennial Meeting

江　上　英　一*

「今度の A. S. P. meeting. 面白そうだよ.」
同じ研究室の友達がそう言うので，プログラムを見てみる．なるほどなかなか充実した内容のようだ．興味のある Galaxy Evolution の session だけ見ても，Dressler, Gallagher, Kormendy, Ostriker, van den Bergh, White といった人達の名前が Speaker として載っている．我が Institute for Astoronomy (IFA) からも Cowie 氏と Lilly 氏が talk を行うことになっている．Lick 天文台への tour もあるし，最終日には Carl Sagan 氏が特別講演を行うらしい．問題はお金であるが，meeting の参加費や宿泊費などで何やかやとおよそ 300 ドル．それに航空運賃を入れれば最低 600～700 ドルは覚悟しなければならない．痛い出費であるが，この夏から始める Research Assistant の給料を考えれば出せない額ではない．高いお金を払って出かけて行っても，大学院の1年目を終えたばかりの未熟者の自分にどれだけ話の内容が理解できるかという疑問は残るが，とにかく有名な人達の顔を拝んで帰って来るだけでも何か御利益があるのではあるまいか．そう考えて，とにかく行ってみることにした．

今回の A.S.P. meeting は，百周年記念ということで，A.S.P. 発祥の地である Univ. of California, Berkeley において，6月20日から6月25日まで約一週間，盛大に開催された．A.S.P. の1つの大きな特徴は，専門家どうしの情報交換の場としてだけではなく，専門家と一般大衆の交流の場として広く天文学の発展に貢献するということにある．従って多くの一般の方々が A.S.P. の会員としてこの meeting に参加し，実際プログラムも日程の後半は一般の人向けに組まれている．優秀な天文学者だけでなく，優秀な天文学の教育者に対して特別な賞をもうけているところに，A.S.P. の精神があらわれている．プログラム全体の構成としては，6月20日の夜に Reception を行った後，6月21日～23日まで Scientific Symposium が3つの部門 (The Evolution of the Universe of Galaxies, The Evolution of the Interstellar Medium, The Evolution of Planetary System) に分かれて行われ，それと一部併行する形で6月23日～25日まで一般向けの lecture や seminar が行われて，最終日25日の夜，全体の締めくくりとして Carl Sagan 氏の講演が行われた．またこれらのメイン・プログラムと同時に，ポスター・セッション及び天文学関係の出版社による展示即売会，さらには各種 tour (Lick 天文台，NASA Ames 研究所など) が行われた．

レセプションに集まった参加者

ポスター会場，書籍展示コーナー．コーヒーブレークの会場でもあった．

さてまずは Scientific Symposium の方だが，初めに3つの部門合同で開会式が行われた．会長の Drake 氏 (おわかりと思うがかの有名な Drake 方程式の Drake 氏) が開会の辞を述べた後，Berkeley を代表して Kuhi 氏が挨拶を行ったが，開口一番，

「発足当初，A.S.P. は Berkeley マフィアによって運営されているという声があったが，その伝統が今でも守られていて私は大変嬉しい.」

と joke を飛ばし，一同の笑いを誘っていた．しかしこれは実際事実のようで，A.S.P. の中心人物のかなりは Berkeley 関係者のようだ．天文学に限らず，UC Berkeley というのはアメリカの中心的な大学の1つで，その大学院教育は総合的に見て全米でも一，二を争うと言われている．ただ州立大学の悲しさか，10 m 望遠鏡製作の際は予算が集まらず，全米一金持ちと言われる California Institute of Technology にプランを横取りされる形になって，非常にくやしい思いをしたらしい．

* ハワイ大学天文研究所

開会式の後，いろいろ Symposium が3つの部門に分かれて始まったが，私は Galaxy Evolution の session に参加した．会場は非常にむし暑く，司会の Spinrad 氏が "Welcome to the baked conference." と言っていたが，まさにその通りの熱気であった．1つ1つの talk についてとやかく言う能力は私にはないし，Symposium の talk の詳細は A.S.P. の Conference Series として出版されるはずなのでそちらを見て頂きたいが，Hawaii から同行の日本人 astronomer S 氏いわく，「Cowie & Lilly, Tyson, Koo といった人達によって Galaxy の Survey がかなり Deep なところまでやられているなあ」ということであった．これから Space Telescope の打ち上げ，Keck Telescope の完成とアメリカはどんどんその観測能力を広げていくわけで，JNLTができるまでにオイシイところをみんな持っていかれてしまうのではなかろうかと氏は危惧なさっておられた．

ところで Symposium の talk 自体どれも興味深いものであったけれども，私個人としては，アメリカで参加する最初の conference ということもあり，日頃名前をよく耳にする著名な人達の顔を見るだけで非常な感動を覚えた．だいたい talk の後で質問するのは有名人に限られているので，よく質問する人達の顔を覚えておき，休憩時間に忍び寄って行って名札を盗み見るわけである．例えば Burbidge 女史などが目の前にボンと立っていたりすると，「この人が Burbidge, Burbidge の Burbidge かあ」などと一人で感動してしまうわけである．しかしこういう一瞬の強烈な印象というのはなかなかバカにできないものがあって，今でもそういった一瞬，一瞬のイメージというのは私の胸に焼きついているし，今後も何らかの形で私の生き方に影響を与えて行くのではないかと思う．

さて Scientific Symosium 最終日23日の夜は100周年記念のパーティーである．私はたまたま Rubin 女史の隣りに座ることになった．普通にしゃべっているとただの気のいいオバさんといった感じなのが，天文学の話になるとキリッとするのが印象的であった．各種表彰式が行われた後，今年度の Bruce Medal (A.S.P. から天文学に大きく貢献した Scientist に与えられる最も栄誉ある賞）が，オランダの Blaauw 氏に送られた．Blaauw 氏はもうだいぶお年に見えたが，受賞の挨拶で，ニコリともせずにボソボソと面白い冗談を言うので，一同の爆笑を誘っていた．学生の頃読んだ Eddington の本に「原子核の回りを回る電子は，クルクル回転している女の子の回りを回るスカートのようなものだ」と書いてあったので，その後電子を思い浮かべるたびにそのイメージが頭から離れなかったこと，師 Hertzsprung が非常に精密な観測を行う人であったことが，後に視差観測衛星 Hipparchos を考え出す動機となったこと，Bethe の言った「ヨーロッパの国どうしで協力したらどうだ」という一言が ESO 発足のきっかけとなったことなど，興味深いお話ばかりであった．

さて翌日，24日は一日中一般向けの lecture が続いた後，夕方から Lick 天文台への tour である．Lick 天文台は Univ. of California 系の大学 (Berkeley, Los Angels, Santa Cruz など）の共有の天文台であるが，実際の運営は UC Santa Cruze によって行われている．5:30 p.m. に Berkely を出て，およそ2時間ほどで到着した．しかし夏の California は Summer time で1時間繰り上がっているのでまだ明るい．まずは 120 inch 望遠鏡の見学である．説明には Faber 女史があたっていた．彼女の説明によると，今迄 Lick はよりよい Detector を開発することでその明るい空を克服しようとしてきたが，さすがにもう諦めたそうで，これからは Keck 望遠鏡に力を注ぐことであった．暗くなってからわかったことであるが，Lick 天文台の眼下に広がる San Jose の町はものすごい光を放っていて，日本の岡山どころの話ではない．この夏から IFA にやって来た Santa Cruz 出身の学生によると，San Jose 方向の空はもう夜は真っ白で，肉眼で明るい星座を探すのも困難なぐらいで，とても観測には使えないとのことであった．Lick 天文台は今後博物館的存在になって行くのかもしれないが，実際一般見学者にとっては非常に楽しめるようになっていて，スライド上映あり，おみやげありで，特に 36 inch の屈折望遠鏡などは作りが大きいだけに迫力がある．かつてこの望遠鏡が世界一を誇った時代もあったのだと思うと感慨もひとしおである．それにしても 120 inch をこのままここで眠らせてしまうのは何とももったいないような気がする．

さて最終日25日，すべてのプログラムが終了した後，夜はお待ちかね Carl Sagan 氏の特別講演である．Carl Sagan 氏のアメリカでの人気というのは我々日本人には計りしれないものがある．なにしろかの有名なＴＶシリーズ "Cosmos" は，今までもっとも多くのアメリカ人が見たＴＶシリーズだと言われている．何でも新聞にこの講演の広告が載ったとかで，開場前から長蛇の列ができ，開場と同時にウワァーッとなだれ込んで，収容人員2000人のホールはあっという間に埋まってしまった．うす暗い場内には "Cosmos" のテーマとして使われたシンセサイザー音楽が流れ，まさに大スターのコンサート開演前といった感じである．司会者の Drake 氏が Sagan 氏の過去に受けた賞（何と彼は Pulitzer Prize まで受賞している）や現在の様々な役職を紹介していたが，全部一通り言い終えるだけで4～5分はかかったのではないかと思うほどで何も知らない人でも Sagan 氏がいかに

偉大な人であるかということがすぐにわかる仕組みになっている．その後，いよいよ大歓声の中，Sagan 氏の登場である．話の内容自体は，一般大衆向けということもあってそれほど目新しいものはなかったが，要するに，地球上で有機物の合成が一から始まったとすると，その後実際に生命が誕生したと思われる時代までの時間があまりに短かすぎるので，ある程度複雑な有機物が宇宙空間から隕石とともに持ち込まれることによって，後の生命誕生に至ったのではないかとのことであった．

後半 2 日間，一般向けの lecture を聞いて感じたことなのだけれど，こちらの人はみなさん話し方が非常にうまい．よくアメリカ人は話し上手で日本人は話し下手と言われるが，一体何が違うのか．一言で言うと joke の数である．みなさん一流のユーモアの持ち主で，聴衆を飽きさせない．まさに entertainer といった感じで，天文学者にしておくのはおしいくらいである．なかには自分で演奏したピアノを録音してきて，それに合わせて有名な天文学者の名前を片っぱしから歌った人がいたが，まあそれはやり過ぎとしても，こうやって一般の人達に現代の天文学の成果を紹介することで，宇宙の不思議，そしてそれを解き明かす興奮を知ってもらうことはとても大切なことではないだろうか．なぜならこういった天文学とは直接何の関係もない人達が，毎年天文学の研究のために莫大なお金を払ってくれているからである．現在のアメリカの天文学の発展を支えているのは，こういった幅広い人々の天文学に対する関心，そしてその研究成果に対する期待といったもののような気がしてならない．実際天文学者達の側でもその宣伝にはかなり骨を折っていて，この meeting 自体もその一つであるし，Carl Sagan 氏がＴＶシリーズ "Cosmos" を製作した際にも，10 年という年月を費している．ちなみに Sagan 氏は第二弾を企画中だそうである．

さて，拙い文章ではあったが楽しんでいただけたであろうか．Ｓ氏からの原稿催促の無言のプレッシャーが日に日に強まる中，何とか書き上げることができた．アメリカの大学院の地獄のような学期末シーズンを乗り越えた一人の若者が，その解放感のあまり大金も顧みずに California は San Francisco まですっ飛んで行ってしまった，その脳天気な雰囲気が伝われば幸いである．当初の「有名な人達の顔を拝んで帰って来る」という目的は達せられたが，その御利益があるかどうかは，今のところまだ定かでない．

〔筆者江上氏は京都大学宇宙物理を卒業して，現在ハワイ大学天文学研究所大学院 2 年度在籍です．B. Tully 氏と銀河測光プログラムに従事し，D. Sanders 氏の IRAS 銀河研究の補助を行なっています．佐々木敏由紀（国立天文台）〕

おかげさまで 120 MARUZEN 周年

11月下旬刊

一頁一頁から新しい発見を！

理科年表

1990年版

国立天文台 編　ポケット版：定価 1,009円
机　上　版：定価 1,957円

科学知識として日常に必要な種々の定数，資料を，暦・天文・気象・物理化学・地学・生物の各分野にわたって完全に集約。海王星の最新データ，2000.0星図基本データ ほか

復刻版 理科年表 ～大正十四年発行・初版本～

東京天文台 編　A6/定価 2,575円

理科年表読本

星空へのガイドブック
～スカイウォッチングを楽しもう～
磯部琇三 著　B6/定価 1,854円
星空をみる楽しみとして，タダから100億円までのコスト別に観測方法を紹介。STEPを追いながら知識が得られる好著。

くもった日の天文学
～天文情報相談室～
木下 宙・西村史朗・新美幸夫・池内 了 編
B6/定価 1,339円

宇宙からみた地球
～資源リモートセンシング画像集～
資源観測解析センター 監修/資源リモートセンシング画像集編集委員会 編
B5/定価 5,768円

丸善エンサイクロペディアシリーズ

MARUZEN
宇宙・天文大辞典
小田 稔 監訳　B5/定価 15,450円

宇宙経由/野辺山の旅
森本雅樹 著　B6/定価 1,339円

ポップアップ宇宙
～ビックバンからブラックホールまで～
村山定男 監訳　西城恵一 訳　B4変/定価 3,914円

パリティ別冊シリーズ No.7 宇宙物理
パリティ編集委員会 編　A4変/予価 2,900円
太陽系46億年の歴史/ブラックホールへ落ち込む物質/ほこりだらけの宇宙/カニ星雲の物理学/銀河系の磁場構造 ほか

※定価は消費税込みです。

丸善（出版事業部）
〒103 東京都中央区日本橋 3-9-2　第二丸善ビル
営業(03)272-0391　編集(03)272-0393